

(別添 2)

No.	
策定年月	令和4年4月
見直し年月	

麦・大豆産地生産性向上計画
瑞浪市産地(日吉・明世)
(作成主体:農事組合法人 日吉機械化営農組合)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

瑞浪市の日吉・明世地区における、作付けされている田の本地面積(令和3年度:152.4ha)に対して、主食用米の作付け割合が73%を占める(令和3年度:110.5ha)水田地域である。主食用米以外の土地利用型作物で多くを占めているのが、大豆・エゴマであり、令和3年度の田における大豆の作付面積は3.74ha、エゴマの作付け面積は2.80haとなっている。また、田における麦の作付け面積は0.64haとなっている。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、新規需要米やエゴマ(岐阜県水田収益力強化ビジョンに記載あり)等の高収益作物等の生産拡大と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

大豆の生産拡大については、現在点在する小集団の圃場をまとめ、効率的作業を可能とする生産性の高い大豆産地づくりを推進していく。大麦は大豆収穫後に播種を行う二毛作のため、大豆の圃場を団地化することで、大麦の栽培効率も上がり、生産拡大に繋がる。

当法人は、地域の中心経営体として、水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において麦・大豆生産性向上・生産拡大への取組みをより具体化し、当産地の農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

大麦(令和3年2.5t)については、直売所等へ出荷しているが、需要に対し生産量が多い状況にあり、シリアル等の加工品への活用も視野に入れながら、販路の拡大を図ることが必要である。

大豆(令和3年2.2t)については、直売所等への出荷と味噌、きな粉への加工・販売を行っているが、豆腐原料としての需要もあることから、作付面積の拡大、単収の向上により生産量の増加を図っていく必要がある。

(2) 生産における現状と課題

大麦は平成30年に作付面積17aから栽培を開始し、令和2年には作付面積を136aに拡大したが、大豆収穫後、大麦播種までの期間が短く、施肥や排水対策等のほ場準備の時間確保が課題となっている。

大豆の作付面積については、横ばいで推移している。現在、水の確保が難しいなど水稲に不向きな圃場での栽培を行っており、ほ場が地域に点在しているため、栽培管理上の効率が悪く、適期の防除作業等に苦慮している。また、排水性の悪い土質であることから、土壌の改善も必要である。一方で主食用米は価格の低下や需要が減少していることから、大豆への切り替えを図っていく必要がある。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)
小麦										
大麦	ダイシモチ	0.17	0.64	1.36	117.6	117.2	183.8	0.200	0.750	2.500
作物計		(0) 0.17	(0) 0.64	(0) 1.36	(0) 117.6	(0) 117.2	(0) 183.8	(0) 0.200	(0) 0.750	(0) 2.500

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)
大豆	フクユタカ	1.85	1.49	0.44	58	64	86	1.085	0.961	0.378
	青大豆	0.37	0.74	1.23	128	102	97	0.475	0.758	1.187
	里のほほえみ	0.00	0.00	0.51	0	0	68	0.000	0.000	0.350
	黒豆	0.14	0.14	0.23	71	101	40	0.100	0.141	0.092
	極小黒豆	0.09	0.09	0.14	80	81	107	0.072	0.073	0.150
作物計		(0) 2.45	(0) 2.46	(0) 2.55	(0) 71	(0) 79	(0) 85	(0) 1.732	(0) 1.933	(0) 2.157

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	令和元年産		令和2年産		令和3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦								
大麦	ダイシモチ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
作物計		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	

作物名	品種名	令和元年産		令和2年産		令和3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	フクユタカ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	青大豆							
	里のほほえみ							
	黒豆							
	極小黒豆							
作物計		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

瑞浪市においては中山間地等の条件不利地域であることから、2ha以上の一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地とする。

なお、団地化することにより排水性の確保、適期作業徹底等が見込まれる場合は、完全に隣接していない圃場であっても、栽培管理が一体的に行われ、農作業が一連の流れで実施可能な圃場の位置関係と市が判断した場合、団地であるとみなす。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

(1)取組方針

① 需要に応じた生産と販売の実現

大麦については直売所を中心に精麦としてのみ販売を行っているが、需要に対し生産量が多い状況である。取扱店舗の増加、現在行っているインターネット販売の強化を目指すとともに、加工品(シリアル等)の製造・販売を検討し販路を拡大する。

大豆については生豆だけでなく、きな粉(自家加工)の販売や味噌原料(契約出荷)としての出荷等をしているが、豆腐原料として近隣市の中津川市にある株式会社豆の匠中島豆腐からの需要が見込まれるため、生産量の増加が必要となる。機械の導入と団地化を推進し、圃場の状態、作業効率を向上させることで、作付面積と単収の両面から生産量を増加させる。

② 団地化の推進について

現在は水源確保が難しい圃場を中心に作付を行っており、作付地が大豆以外の作物と混在している。そうした圃場を作目転換により同一作物で団地化し、作業効率を向上させる。大豆作付地の団地化を行うことで、大豆収穫後に行う大麦についても作業の効率化を図ることができる。

また、大麦についても団地化された大豆ほ場に二毛作を計画することで集約し、作業効率を上げるとともに、需要に応じた作付圃場の拡大を行う。

③ 機械の導入・活用による生産性の向上

導入するマニュアルプレッダーを活用し、団地化された圃場に均一に効率良く堆肥を散布することで、圃場全体の土壌改善を行い、大豆の品質向上と収量増加を図る。また、導入するサブソイラーを活用し、排水性を高めることで、湿害を予防し、品質向上と収量増加を図る。病虫害防除について、農薬散布ドローンを活用することで効果的に行い、作業の省力化と同時に品質向上と収量増加を図る。

④ 畑地化の推進について

大豆、大麦、ニンニクの輪作体系を確立・導入することで、連作障害を予防し、当該圃場を畑地化し、継続的な作付を可能とする。

※ ①需要に応じた生産と販売の実現、②団地化の推進については必ず記載する。③以降は産地の実態に即して記載する。

(2)計画

① 生産量

作物名	品種名	令和3年産(現状)			令和10年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
小麦								
大麦	ダイシモチ	1.36	183.8	2.500	1.40	200	2.800	
作物計		(0) 1.36	(0) 183.8	(0) 2.500	(0) 1.40	(0) 200	(0) 2.800	

作物名	品種名	令和3年産(現状)			令和9年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
大豆	フクユタカ	0.44	86	0.378	0.60	100	0.600	
	青大豆	1.23	97	1.187	1.50	110	1.650	
	里のほほえみ	0.51	68	0.350	1.00	80	0.800	
	黒豆	0.23	40	0.092	0.26	110	0.286	
	極小黒豆	0.14	107	0.150	0.14	110	0.154	
作物計		(0) 2.55	(0) 85	(0) 2.157	(0) 3.50	(0) 100	(0) 3.490	

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

※ 現状値は、計画策定時に数値が把握できる直近の年産を記載する。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 災害等により、現状値として直近年を用いることが適当でない場合は、現状値を7中5とすることが出来る。その場合備考欄に明記すること。

② 団地化

作物名	品種名	令和3年産(現状)		令和10年産(目標)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦						
大麦	ダイシモチ	0	0.0%	0	0.0%	作付面積が団地化基準面積である2ha未満であるため
作物計		0	0.0%	0	0.0%	

作物名	品種名	令和3年産(現状)		令和9年産(目標)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	フクユタカ	0	0.0%	2	58.0%	団地化面積 2.03ha 作付面積 3.50ha
	青大豆					
	里のほほえみ					
	黒豆					
	極小黒豆					
作物計		0	0.0%	2	58.0%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 現状値については、原則、大豆は令和元年または2年産、麦は令和2年産または3年産の数値を記載すること。

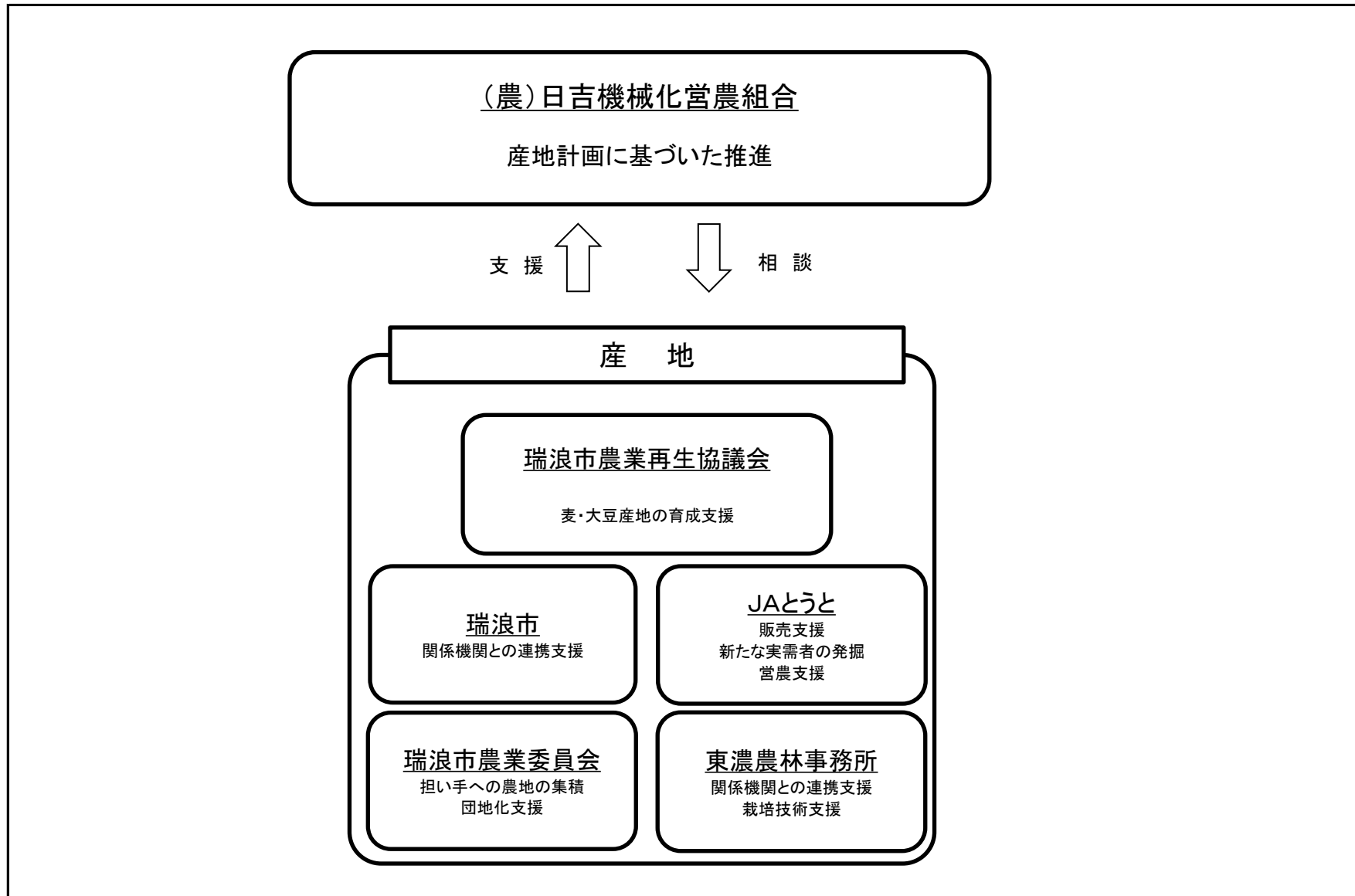
※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目(作物)の作付面積に占める割合を指す。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載が良い。

4. 推進体制及び役割



5. 他計画・プラン等との連携

	連携する計画・プラン等名称	作成年	備考
1	水田収益力強化ビジョン	令和3年	
2	岐阜県産地生産性向上事業	令和3年	
3	瑞浪市「人・農地プラン」	平成25年(令和3年改訂) 平成26年(令和3年改訂)	日吉地区 瑞浪明世地区
具体的連携内容 水田収益力強化ビジョンに沿った作付転換を進める。また、関係機関と現状や課題を共有し、より効果的な転換となるよう推進する。 岐阜県産地生産性向上事業に沿った地域生産性向上計画を策定・推進し、麦・大豆の生産拡大を行う。 瑞浪市「人・農地プラン」の中心経営体に位置付けられており、今後も農地の集積・集約を推進する。			

6. 活用予定の事業

関連	事業名	備考
○	水田麦・大豆産地生産性向上事業	令和4年度に営農技術と機械の導入を行い、作付面積の拡大と団地化に取り組む。

※別紙第6の事業に該当する場合は、「○」を記載すること。その他の事業を活用する場合は「-」。

※備考欄には、活用する時期や具体的な取組内容を記載すること。